

殺虫剤  
MEP乳剤

サンケイ スミパイン<sup>®</sup>乳剤

農林水産省登録 第15043号

性状：黄褐色可乳化油状液体

毒性：普通物（毒物及び劇物に該当しないものを指していう通称）

危険物：第五類 ニトロ化合物

有効年限：一般用（500ml）：3年、空散用（10l×1）：2年

包装：500ml×20、10l

有効成分：MEP（化管法第1種）・・・80.0%

殺虫剤分類 1B

スミパイン<sup>®</sup>は住友化学（株）の登録商標です。

特長

- マツノマダラカミキリの成虫や幼虫以外にも、松を加害する広範囲の害虫の同時防除が可能です。
- マツクイムシ防除では、空中散布における「液剤少量散布」、「液剤散布」、「ガンゾル散布方式」、「無人ヘリコプターによる散布」と多目的な使用が可能です。
- 散布された薬剤は樹皮などに速やかに浸透し、散布後の有効成分は降雨による流亡が少なく、安定した防除効果が期待できます。
- 有機溶媒を含まない製剤です。各種の試験において安全性が確認されています。

適用病害虫名及び使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数		
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ成虫	150~200倍	3l/本 (樹高10m)	成虫の発生初期 及び 発生最盛期直前	6回以内	散布	6回以内		
		80~160倍		成虫の発生初期		空中散布 (単木処理)			
		4~6倍	800ml/10a	成虫の発生直前 より 発生最盛期直前		6回以内		空中散布 (10a当り投下薬量は 本剤200ml、但し、微害林で は130~200mlとする。)	6回以内
		15~45倍						3~6l/10a	
		60~180倍						12~24l /10a	
		18倍						3l/10a	
まつ (枯損立木)	マツノマダラカミキリ幼虫	80倍	5l/本 (樹高10m)	幼虫期 (秋期)	6回以内	空中散布 (単木処理)	6回以内		
	マツノマダラカミキリ (材内生息虫)		5~10l/本 (樹高10m)	成虫の発生前 (春期)					
まつ (衰弱木・ 枯損立木)	クイムシ類 ゾウムシ類	80~120倍	5~10l/本 (樹高10m)	—	6回以内	散布	6回以内		
まつ	マツカレハ	1000~ 1500倍	200~700l /10a	—	6回以内	散布	6回以内		
		100倍				6l/10a		幼虫期	空中散布
		8倍	800ml/10a						
まつ類	ハバチ類	100~ 200倍	3~6l/10a	幼虫期	6回以内	空中散布（10a当り投下薬量 は本剤30~60mlとする。）	6回以内		
		1500~ 2000倍				200~700l /10a		散布	
		16倍				800ml/10a		空中散布	
	ハマキガ類	1000~ 1500倍	200~700l /10a	—		散布			
		50~100倍				6l/10a		空中散布	
	マツバナタマバエ	250倍	200~700l /10a	成虫の 発生最盛期		散布			
	シンクイムシ類	250~500倍		幼虫期					
	クイムシ類	40倍	5l/本 (樹高10m)	成虫の発生初期		空中散布 (単木処理)			
	ミスジツマキリエダシヤク	1000~ 1500倍	200~700l /10a	—		6回以内		散布	6回以内
		8倍						800ml/10a	
30倍		3l/10a							

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	MEPを含む農薬の総使用回数
まつ類 (風倒木)	キクイムシ類	原液	750ml / 10a	成虫の発生直前	6回以内	空中散布	6回以内
樹木類 (倒木、伐倒木)	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キクイムシ類	50~150倍	300~ 600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積 1m <sup>2</sup> 当り)	伐倒・風倒直後 樹皮下及び 材内生息期	6回以内	散布	6回以内
	スギザイノタマバエ	50~100倍		樹皮下及び 材内生息期			
	スギカミキリ	100~300倍	400~600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積 1m <sup>2</sup> 当り)	伐倒・風倒直後 樹皮下及び 材内生息期			
樹木類	スギカミキリ	50~100倍	400~600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積 1m <sup>2</sup> 当り)	成虫の発生初期 又は直前	6回以内	樹幹散布	6回以内
	カシノナガキクイムシ	50倍	500ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積 1m <sup>2</sup> 当り)				
	スギザイノタマバエ	100~200倍	600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積 1m <sup>2</sup> 当り)				
	カミキリムシ類 (スギカミキリを除く) ゾウムシ類 キクイムシ類	50~150倍	300~600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積 1m <sup>2</sup> 当り)	幼虫期		空中散布	
	ヤマダカレハ	1000倍	200~700l / 10a				
	エダシャク類	8倍	800ml / 10a	若令・ 中令幼虫期		空中散布	
	エダシャク類 マイマイガ ドクガ類	1000~ 1500倍	200~700l / 10a				
	マイマイガ ドクガ類	50~100倍	3~6l / 10a	散布			
	スギタマバエ	250~500倍	200~700l / 10a			虫えい形成期	
	ヒノキカワモグリガ	200~300倍	6l / 10a	成虫の発生直前~ 発生最盛期直前 (6~7月)			
	オオハリセンチュウ	500倍				-	
	さくら	コスカシバ	100~300倍	200~700l / 10a		成虫発生期	
いぬつげ	オオハリセンチュウ	500倍	3~5l / 株 但し、10l / m <sup>2</sup> まで	-	1回	株元灌注	6回以内
ほだ木	カミキリムシ類	350倍	300~600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積1m <sup>2</sup> 当り)	成虫発生初期及び 産卵期(ほだ木の 伏せ込み期)	2回以内	散布 (ほだ木及びほだ木用笠木を同 時に防除する場合は希釈倍数を 350倍とする。)	2回以内
ほだ木用笠木	カミキリムシ類	40倍	300~600ml / m <sup>2</sup> (樹皮表面積1m <sup>2</sup> 当り)	成虫発生初期及び 産卵期(ほだ木の 伏せ込み期)	2回以内	散布 (ほだ木及びほだ木用笠木を同 時に防除する場合は希釈倍数を 350倍とする。)	2回以内

## 使用上の注意事項

- アルカリ性の強い農薬との混用はさけてください。
- ひのきに対しては個体によって落葉、枯損にいたるおそれがあるので、付近にある場合にはかからないように注意して散布してください。
- 本剤によるマツノマダラカミキリ成虫防除は後食防止を目的とするものであり、成虫発生直前又は発生初期に時期を失ないように散布し、更に20日後(成虫発生最盛期直前)にもう一度散布すると効果的です。
- マツノマダラカミキリ成虫に対する150～200倍液の地上散布及び空中散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高10mの松1本当たり3ℓを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹冠部を中心に全面に散布してください。
- 空中散布による単木処理の場合は、専用の鉄砲ノズルを用い、対象木の樹冠部を中心に適確に散布してください。又60～180倍液(12～24ℓ/10アール)で空中散布する場合は、限定された地域(林分)を対象として単木処理に準じた方法(鉄砲ノズル)で適確に散布してください。
- マツノマダラカミキリ幼虫に対する空中散布の単木処理をする場合、散布液量は、樹高10mの枯損立木1本当たり5ℓを標準とし、木の大きさにより適宜増減し、樹幹と枝にむらなく散布してください。
- マツノマダラカミキリ成虫防除(空中散布)の場合の投下薬量は10アール当り本剤200mℓを基準とするが被害林に使用する場合はその程度に応じて130～200mℓ内の一定量としてください。投下薬量は、希釈倍数及び10アール当り散布液量を所定の範囲内で調節して所要の薬量になるようにしてください。
- 本剤を無人ヘリコプターにより散布する場合は、対象松林の梢端が見える場所で行ってください。
- 本剤を樹木類の樹幹散布に使用する場合は、樹皮表面積に応じて所定量をむらなく散布してください。
- 本剤を樹木類(倒木、伐倒木)に使用する場合は、樹皮表面積に応じて所定量をむらなく散布してください。
- 本剤による伐倒木処理の場合、厚皮部のカミキリムシ類やゾウムシ類には薬液を多目に散布してください。
- 本剤による伐倒木処理の場合、降雨直後または雨天の散布はさけ樹皮が雨などで濡れているときは乾いてから散布してください。
- さくらのコスカシバに対しては、その発生に応じて2～3回散布する。
- いぬげのオオハリセンチュウに対しては、薬液の株元灌注後100ℓ/㎡の灌水を行ってください。
- 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 本剤を大型散布機(ヘリコプターなど)で使用する場合は、各散布機種ごとの散布基準に従って実施してください。
- 本剤を空中散布用薬剤として使用する場合は次の注意を守ってください。
  - 散布薬液の飛散によって他の動植物(特にあぶらな科作物、桑、さといも、ソルゴ等の農作物、養蚕、養蜂)に影響を与えないよう散布区域の選定に注意してください。
- 本剤を空中少量散布(4～6倍液)に使用する場合はさらに次の注意を守ってください。
  - 微量散布装置以外の散布器具は使用しないでください。
  - 散布中薬液の漏れないように、機体の散布用配管、その他散布装置の十分な点検を行ってください。
  - 特定の農薬(混用可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないでください。
  - 散布終了後は次の項目を守ってください。
    - ・使用後の空の容器は放置せず安全な場所に廃棄してください。
    - ・機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
- 対象樹種がヒノキの場合、一部のヒノキで落葉現象が生じることがあるので、あらかじめ切枝に薬剤を散布し、落葉が生じない樹であることを確認の上、散布してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ミツバチの巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合は使用しないでください。
  - 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 水源池、飲料用水、養魚池、養魚田等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理してください。

## 安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤の解毒剤としては硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗いし、眼科医の手当を受けてください。
- 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗顔・うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

## 水産動植物に係る注意事項

- 水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 空中散布又は無人ヘリコプターによる散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。
- 使用残りの薬液が生じないよう調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

## 保管に関する注意事項

- 危険物第五類に属するので火気および衝撃には十分注意してください。
- 火気をさけ、直射日光が当たらない低温な場所に密栓して保管してください。